

税金が繋ぐ国と国

三好市立三野中学校3年 寺野 優輔

今年の十月、僕は地元の三好市との姉妹都市であるアメリカ・オレゴン州のダルズ市に親善団員として五日間、ホームステイすることになった。初めての海外、初めてのホームステイで楽しみと不安が入り混じっている。

そして先日、第一回目となる今回のホームステイについての説明会が行われた。僕の他にも親善団員としてホームステイをする中高生は合計で十五人程いた。最初に簡単な自己紹介をした後、アメリカまでの交通手段や時間、予定などの説明をしてもらったが、僕が一番驚いた説明があった。費用だ。普通は、交通費や食事代などにかかる金額を合わせると、一人あたり約四十万円から五十万円程の想像もできない金額となってしまう。しかし、このホームステイでは三好市とアメリカ・オレゴン州のダルズ市との姉妹都市交流の推進を図るものであるので、本来なら約四十万円から五十万円程もかかる費用が約十五万円程の自己負担となるのだ。あまりの金額の差に唖然とした。僕が払う金額は半額以下となってしまった。こんな財源が一体どこから出ているのかと不思議に思ったが、答えはすぐに分かった。税金だ。

僕にとって税金は払うものだった。お店に行くと消費税を取られるし、親は働けば働くほど所得税を払っていた。つまり、いつも税金を納めているだけだと思っていた。しかし、今回は違った。僕が直接的に三好市の税金によって支えられるのだと実感することができた。そして、僕以外の十五人程の分の費用も半額以上が三好市の税金によってまかなわれることとなった。

しかし、改めて考えてみればそうだ。僕は今回の金額補助以外にもたくさんの税金によって支えられている。教科書の無償配布や学校のタブレット、毎日通る通学路の道路整備など、僕の身辺なところでは多くの税金が使われ、日々の豊かな生活が実現しているということを知ることができた。

毎年のように人口が減少している三好市。その中で集めたとても大切な税金を姉妹都市とのさらなる良い関係を築くために、補助金として使ってくださる三好市には本当に感謝しかない。

税金が実現してくれた今回の国際交流。僕は、三好市の人々の思いに答えるため、現地で多くの異文化に触れて体験し、学んだことをしっかりと三好市の人々と共有し、これから三好市の地域活性化に生かしていきたい。そして、三好市とダルズ市とのこれまで以上に良好な関係を築けられる国と国とを結ぶかけ橋となりたい。

僕は、大人になつたら三好市で働き、日常の様々なところで税金をこれまで以上に納めることとなるだろう。しかし、次は僕のように国際交流をすることとなる中高生たちを税金で支えてあげることができる。税金は一つの恩返しなのかもしれない。